

第 8 号では、2020 年度から開始される (2021 年 1 月に実施される) 大学入学共通テストについて触れ、その考え方は、センター試験世代の皆さんにとっても、大学個別試験に反映されるに違いないという予想のもと、「第一志望を受けよう」と題して、書きました。今回も大学入学共通テストと皆さんとの関係について書きます。

大学入学共通テストの試行調査が 11 月、英語を除く 5 教科 11 科目について行われ、全国の国公私立高校の 4 割にあたる約 1900 校、延べ約 18 万人の高校 2・3 年生が参加しました。(英語の「読む・聞く」は、来年 2 月に試行調査が実施されます。) 本校も参加し、11 月 22 日 (水) 3・4 校時、3 年世界史研究の生徒が世界史を、3 年文系数学・応用数学の生徒が数学 I・Aを受けました。

作文・資料読解・記述式入試問題のススメ

12 月 4 日 (月) 大学入試センターは、大学入学共通テストの試行調査問題を公表しました。これを受けて、5 日 (火)、朝刊各紙は、一斉に報道しました。

《朝日新聞》

(1 面) 脱・暗記 考える大学入試／複数資料読み解答・自ら数式組み立て／問題冊子ページ倍増・高校生、苦戦の傾向

(2 面) 知識「活用」へ一新／Tシャツ売り上げ 最大になる価格は／資料から考察 正答率 6.8%／「探究的な学び」定着促す

(16 面・社説) 考える授業への転換を

(39 面・社会面) 今の授業じゃ解けない／面食らう生徒 対策悩む教員

《読売新聞》

(1 面) 記述式 難易度高く／マーク式複数正答も

(2 面) 略／(3 面・社説) 略

(31 面・特別面) 考える力測る／ページ数大幅増・「解なし」選択肢

《毎日新聞》(30 面) 略

《神奈川新聞》(1 面) 知識の質・表現力問う

見出しは、ざっとこんな感じです。大学入学共通テストでは、記述式問題は、国語と数学で導入されます。試行調査では、次のような特徴が確認されました。(○印は、私のつぶやきです。)

① 複数の資料を読み解く問題が多数

○ 現行学習指導要領における「評価の観点」にも、「読む能力 (国語)」「資料活用の技能 (地歴・公民)」(以下省略) のように、資料読解につながる観点が各教科にあります。その最たるものが、「思考・判断・表現」です。

② 高校生の日常生活につながる題材を活用

③ 問題に『探究活動』の授業の場面

(②③) について

○ 教科学習のみならず、「総合的な学習の時間」、LHR、生徒会活動、学校行事、部活動等により、アクティブ・ラーニングの視点で自学力を育成します。「課題を発見し解決するために必要な『自ら主体的に学び続け

る力』です。

④ 「適当な選択肢をすべて選ぶ」解答方法

○ 正解の数が示されません。「解なし」という選択肢もあります。これならば、選択肢テクニックは使えず、確かな知識、深い思考・判断が求められます。

⑤ 一方の立場を選び、それに合う理由を選ぶ問題。

○ 正解は一つではないということです。AもBも理由次第で正解にも不正解にもなり得る。正解ではなく、**個別暫定解**（対立概念は「一般普遍解」）・**納得解**の時代です。（とくに。）

そして、この傾向は、センター試験世代の大学個別試験にも、少なからず影響を与えるものと、私は思っています。これからの本校が、皆さんとともに取り組まなくてはならないことも明確になりました。それは、次の2点です。

1 条件作文型記述式問題

○ 複数の条件が与えられる。条件の多さは採点の便のためであり、本来的な作文とは言えない。よって、この形式を本校の授業に積極的に取り入れたいとは思わない。従って、この形式への対応は受験生本人の自助努力によるところが大きい。

○ 学校としては、**自由作文形式**により、「**書く機会**」を増やさなければならない。

2 資料読解型問題

○ 複数の資料が与えられるので、資料の量は多い。これを読解する能力は実社会で必要とされる重要な能力だが、そうした教材を自作することは難しく、積極的に**過去の入試問題**等を活用していきたい。

○ **教科書・副教材にある資料**については、積極的に扱いたい。

予測困難な社会を生き抜く力が、センター試験世代の皆さんになくていいはずがありません。自ら問いを立て、対話をしながら問題を解決する力を身につけなければなりません。具体には、複数の資料を読み比べたり、討論したりして、多角的な見方を身につけなければなりません。学んだ内容と実社会とのつながりを考える力を身につけなければなりません。つまり、「課題を発見し解決するために必要な『自ら主体的に学び続ける力』を身につけなければならない、ということです。

.....

受験生の皆さん、昨年同時期と同じアドバイスをします。現役生は、試験当日まで伸び続けます。焦ってはいけません。勝手に「時間切れ」を決め込み、守りに入り、もともとできることを何度も復習して、時間を無駄にしてはいけません。一つひとつ、できないことをなくし、できることを増やして行ってください。大学入試においては、「うろ覚え」と「何も知らない」のは同じことです。「うろ覚え」では、必ず、不正解になるという意味において、大学入試問題はよくできています。喜ばしいことに、皆さんには、たくさんの「うろ覚え」があります。残された時間で、一つひとつ、「うろ覚え」を「確かな知識」（点になる知識）に換えてください。「**確かな知識**」とは、「**問題を解く（知識を活用する）**」ことで身につく「**確かな理解**」のことです。「確かな理解」のもと、忘れようがない「知識」を増やしながら、初戦を戦い、一戦ごとに強くなり、栄冠を勝ち取ってください。あなた方は伸び続けます。1年前もそうでした。自分を信じて勉強してください。